

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価計画

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	玄海みらい学園
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育目標「みらいへステップ～3つの笑顔で～」については児童生徒はもとより地域にも浸透し、学校目標の共有が図られた。 ・昨年度は県指定の小中連携による学力向上推進地域指定事業に継続して取り組み、全職員で学習スタイルを定着させ、学力向上の成果も多くの学年で見ることができた。 ・心の教育として義務教育学校の特色を出し、9か年の発達段階に応じて系統的に児童生徒の育成をするために、小中連携部会を中心に、情報共有を基に、役割を明確化して早期発見・早期対応できる体制作りを整備してきたことが、現在の学園の落ち着いた様子へとつながっている。児童生徒会の取り組みについては、コロナ禍の状況でできる活動に限られていたが、その中でアイデアを出しながら主体的な活動を行うことができた。自他を大切にす心の教育については、今後も継続して取り組んでいく必要がある。 ・課題としては、生活習慣の安定化や家庭学習の充実のために家庭との連携をより一層深めることや、児童生徒が主体的に考え、行動できるように学園全体で学びを仕組むことが挙げられる。また、教職員の時間外勤務時間のさらなる縮減にも取り組む必要がある。
2 学校教育目標	<p>「自ら気づき考え動き、よりよい未来を拓く児童生徒の育成」</p> <p style="font-size: 1.2em;">みらいにつなぐ ～わたしらしさ あなたらしさ～</p>

3 本年度の重点目標	<p>① 主体性の深化と発展を目指したカリキュラム・マネジメント</p> <p>② 義務教育9年間の学びと育ちを意識した学校づくりの推進</p> <p>③ 組織力を生かした業務の改善と時間外勤務時間の縮減</p>
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1)共通評価項目				最終評価				主な担当者
重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価		
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●「授業づくりのステップ1・2・3」を踏まえたアウトプット活動の充実	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師の割合が、85%以上。	・「めあて」「まとめ」「振り返り」を意識した授業に全職員が取り組む。 ・学校教育の様々な場面で「書く」「話し合う」などのアウトプット活動を行う。					・学力向上対策コーディネーター ・研究主任
	○基礎学力の定着と家庭学習の充実	○家庭学習の目安(1・2年30分以上、3年40分以上、4年50分以上、5年60分以上、6年70分以上、中1・中2 90分以上、中3 120分以上)を達成していると答えた児童生徒が70%以上。	・「学習の手引き」を配布し、学習に対する保護者の意識を高める。昨年度に引き続き「家庭学習チェック表」を活用し、面談の折に保護者に開示し、家庭学習に対してさらに関心をもってもらう。(全学年) ・各教科の特性に合わせて、小テストや単元テストに取り組み、基礎的内容や用語の定着を図る。					・学力向上対策コーディネーター ・研究主任
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○前期課程の縦割り遊びを年7回以上行い、異学年との交流を図る。 ○縦割り班での奉仕作業や集会を行う。	・前期課程児童による縦割り遊びを行う。 ・縦割り班で1年生を迎える会、仲良くなる集会、校内奉仕作業を行う。					・特別活動主任
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○「いじめに気づき、注意したり、先生に知らせたりできる」という児童生徒80%以上。 ○いじめの発生時に組織的な対応ができていると答える職員90%以上。	・毎月末の生活アンケートを活用する。 ・全てのクラスで道徳の授業や人権教室等について取り組み、いじめを他人事ではなく自分のこととして考える態度を育て、全校児童生徒の人権意識を高める。 ・発生したいじめ事案をその日のうちに共有できるように、生徒指導部が中心となり、管理職の指示のもと全職員と連携を図る。					・生徒指導主事 ・生活指導主任
●健康・体づくり	①運動習慣の改善や定着化	①授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で210分以上の児童、420分以上の生徒が80%以上。 ○体育の授業を主体的に行っている生徒が80%以上。	・月1回の人権集会の実施や授業を通して人権・同和教育を行い、学校全体で指導にあたる。 ・道徳教育や学校行事を通して、よりよい人間関係づくりを構築する。 ・気になる児童や生徒に関する情報共有の場(連絡協議会や教育相談等)を設けながら指導にあたる。					・体育主任
	②望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	②「健康に食事は大切である」と考える児童生徒90%以上。	・朝食摂取、残菜0を呼びかける。 ・給食時間や授業の中で、食に関する指導を実施する。					・食育担当
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●時間外在校等時間の上限45時間以内の職員80%以上。 ○小中中部等を有効活用し、校務分掌や学年間の共通理解・共通実践を通じた協働体制の構築。 「私は組織に貢献できている」と答える職員80%以上。	・管理職が時間外勤務の状況を把握し、全体または個別に適宜声をかけてタイムマネジメントを指導する。 ・定時退勤日の推進や月別練習計画に沿った部活動指導や休養日の設定による負担軽減。 ・目標や役割を明確化し、成果と課題を基に、PDCAサイクルを機能させ、効率化を図る。 ・校内LANで校務データを共有し、誰もが利用できる環境にすることで効率化を図る。					・管理職

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価				主な担当者
重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○児童生徒会活動の充実	◎児童生徒会活動において「出番・役割・承認」による主体的な活動を仕組み、活動の質や自己有用感の向上とリーダー性の高揚	○年4回以上代表委員会を開催する。 ○年10回以上生徒集会を行う。 ○ボランティア活動を学期に1回以上、年4回以上行う。	・代表委員会を開催し、児童生徒の意見を取り入れた活動を行う。 ・月1回の生徒集会、1学期に生徒総会をおこなう。 ・校舎周りのごみ拾い、暑中見舞いや年賀はがきの作成、募金活動を行う。					・特活部 ・児童・生徒会担当

●...県共通 ○...学校独自 ◎...志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	<p>・</p> <p>・</p> <p>・</p>
--------------------	----------------------------